

豊能町総合まちづくり計画審議会（第3回）議事概要

日 時：令和3年3月23日（火）午後2時00分～4時30分

場 所：豊能町役場2階 大会議室

出席者：委員14名、事務局3名

傍聴者：7名

1. 《議事》豊能町総合まちづくり計画（序論・基本構想）（案）について

(1) 以下の事項について事務局より説明があった。

①豊能町総合まちづくり計画（序論・基本構想 | 案）について（資料1）

(2) 主な質疑、意見

[会 長] まち・ひと・しごと創生総合戦略とは、東京の人口一極集中を是正し、地方にもっと人口を増やしていくというもの。東京に人が集まるのは、仕事と夢が実現できる環境があるから。東京の仕組みをそのまま地方にもってくるのは間違い。地域資源を仕事に変えられる人に来てもらわないといけない。そのためには、豊能町の価値観や未来に向けての夢を積極的につくっていかねばならない。それを総合まちづくり計画で組み立てていきたい。

[委 員] 具体的な目標やビジョンを示すべき。

[委 員] 計画をたてたあと、それをどう実行していくかまで踏み込んで考えることが大事。

[委 員] 他自治体の重点施策の中で真似られるものは真似ればよい。

[委 員] 町民が望むまちの姿を考えることが大事であり基本。

[委 員] 目標をはっきり持つのは非常に重要。人口10,000人などの高い目標を掲げるべき。

[会 長] 大都市圏の人口が膨らんだため豊能町の人口が増えてきた。町の魅力をアピールして来てもらったわけではないが、今後はそうすべき。豊能町自身をもっと積極的にデザインしなければならない。そうしなければ大都市圏の人口減少と同時に潮が引くように町の人口も減ってしまう。

[委 員] 東地区では自然と農業。西地区では新興住宅街を活用することを考えて審議してほしい。

[委 員] 価値観の作り方として、新しい価値観をつくる方法“invention（インベンション）”と、もう一つ最近流行っている言葉で“innovation（イノベーション）”とがある。既に持っている価値観を組み合わせる新たな価値観を生み出すということ。資料1の第2章から第4章までは現状分析だが、今のま

まではただの分析で終わってしまう。序論に第5章を設けてもよいし第4章に項目を加えてもよいが、そこでSWOT分析をするべき。

〔事務局〕ここで、住民ワークショップと企業ヒアリングの結果についてご報告させていただきます。

〔委員〕ワークショップで出た意見を評価材料としては使えると思う。

2. 《議事》豊能町の将来像について

(1) 主な質疑、意見

〔委員〕手工作所へのヒアリングの中に「役場や地元の人との距離感も東大阪では考えられないくらい近い。困ったことにも親身になってくれて、物事が早く片付く。」とあり、確かにそのとおりだと思った。役場が近く、周りの人も顔見知りが多い。コミュニケーションが取りやすいことを強みにして将来像をつくっていけばよいのではないかな。

〔委員〕役場や地元の方との距離感が近いという話に同感。ワークショップでも、行政と住民と企業や団体が協力し合わなければ達成できないことがたくさんあるという意見が多く出た。出た意見は理想が並んでいるような印象だが、どれも1人ではかなえることが難しい。だから、行政と住民と企業や団体が協力し合いながら豊能町の未来をつくっていければ。豊能町で夢をかなえて自分らしく生きている人がどんどん増えていけば、みんなが豊能町を好きになってくれるのではないかな。もし豊能町から転出したとしても戻りたくなくなり、離れて暮らしていても豊能町を好きでいられるよう、人と人との距離が近いまちをつくっていけばよいのではないかな。

〔委員〕「地域とともにある豊能町」では漠然としすぎるが、子どもたちに寄り添った豊能町という大きな目標をつくり、それに紐づけてSNS等で発信してはどうか。

〔委員〕企業ヒアリングの結果を見ると、豊能町に新しい産業を立地できる可能性は高いと思う。将来像としては“新しい産業が育つまち”ということを強調してほしい。

〔委員〕一番の強みは里山環境の素晴らしさ。景観の素晴らしさは人が住む、働く、楽しむ、遊ぶために大事なもの。恵まれた環境の中で人が楽しめる可能性はいくらでもある。乗馬クラブクレインも事業が成立しているが、帰りにどこかへ寄りたい、食事したいと思ってもそういう場所がなく、困っていることがヒアリングからわかる。食事や観光ができる所を人が求めているということ、これも産業につながると思う。住み、働くに加え楽しめる、遊べるということを是非とも将来像にしてほしい。

〔委員〕企業ヒアリングを通して豊能町の魅力を発見できた。こういう生の意見を知

- ったうえで議論していけば、より実態に合うものができていくのではないかと。
- [会 長] 出かけて帰ってきたときに山並みが見え、マイタウンに戻ってきたと実感したと聞いたことがある。つまり、豊能町にとっては山並みが大事。委員が言われた里山という概念が一番しっくりくる。里山というのは人と自然の接点が一番濃厚で、そこに多様性も生まれる。里山が持っている自然と人間の営みの融合空間ということで、“里山タウンズ”を地域像として掲げたい。コロナ禍で生活様式、行動様式が変わってきているため、ワーケーションというものが注目されている。観光地で仕事をしながら余暇も楽しむという働き方。里山というイメージを背景にしてものづくりをしている上手工作所は、これに近いものがある。ものづくりをする会社というのはイメージが大切。クリエイティブな環境の中、社員一人ひとりが素晴らしいセンスを持っているということをアピールするためには場所が重要になってくる。場所を積極的に売り込み企業に来てもらうことについて、実は里山というのはデザインする余地がたくさんある。そういう意味で“里山タウンズ”という言葉を考えて。
- [委 員] “里山タウンズ”というのは良いと思う。里山はどこにもあり、そこに住む人もいるわけだが、楽しい遊びやクリエイティブな仕事ができる所は豊能町にしかないと明確に打ち出してはどうか。豊能町のまちづくり課題3が暮らしやすさの向上となっているが、楽しむ、遊ぶということを柱にしてほしい。
- [委 員] 春は子どもと一緒にタケノコ掘りをし、夏はホテルを見に行き、秋は栗拾い、冬は雪景色の中そりに乗って楽しんだ。こんなこと他の所ではできないと子どもも言っていたので、そういうものを若い世代に向けてアピールしていただきたい。子どもを自然豊かな環境の中で育てられることをワーケーションとともにアピールしてはどうか。子どもたちに自然という財産が与えられる豊能町、その辺りをアピールしていただければうれしい。
- [委 員] 今の豊能町は大きな不便もなく住みやすいが、問題は高齢者。40年ほど前には緑があることを好んで来た人も、今は緑など要らない、もっと循環バスを増やせと言う。今日と同じように明日も明後日も続いてほしいと高齢者は願っている。たとえ良いことでも安定性を崩してほしくないと思っているのが高齢者だ。
- [委 員] 30年後には世代交代するので、目先のことではなく、10～30年先を見据えたまちづくりを進める必要がある。
- [委 員] 高齢者にも納得してもらえるまちづくりが必要。若者と高齢者のどちらも満足するような方向性を示すべき。
- [会 長] 高齢者が変化を求めないという話はよくわかるが、そういう方でも30年後を考えなければならぬ。自分自身の将来をしっかりと考えていかなければ未

来はない。

3. 《議事》土地利用構想（案）について

(1) 以下の事項について事務局より説明があった。

①土地利用構想（案）について（資料2）

(2) 主な質疑、意見

〔委員〕土地利用構想そのものの良し悪しは判断しかねるが、この土地利用構想が計画にどう関係してくるのか、総合まちづくり計画の中での位置づけがわからない。この土地利用構想が計画にどう関係してくるのか。

〔事務局〕新たな産業を生み出す、新たなまちづくりを考えるにあたり、規制緩和ができるような形で土地利用を考えていきたいという思いでこの構想をつくった。

〔会長〕総合計画というのは町の中心になる計画である。この中で土地の使い方を考えていく。農地再編等の具体的な問題に関わってくるため、ここである程度しっかりと位置づけておく必要がある。

4. その他

〔事務局〕次回は遅くとも6月中には開催したいが、年度替わりで委員の交代もあるので、4月以降にあらためて調整させていただく。

〔会長〕この会議は全6回の予定ということで、あと3回の中でまとめていかなければならない。今後よろしく願います。

5. 閉会

(1) 午後4時30分に閉会した。

本議事録にかかる会長の内容確認・署名

本議事録について議事内容と相違ないことを確認する。

豊能町総合まちづくり計画審議会会長

会長署名